

キューバ革命とキューバ危機

キューバは1898年の[1 **米西**]戦争で「独立」が認められたが、実際にはアメリカの強い干渉下におかれていた。1930年代改善されたが、独裁政権のもと[2 **アメリカ**]資本が地主と結びサトウキビ農場や製糖工場を経営、農民の不満が高まっていた。

1959年[3 **カストロ**]はゲバラらとともにゲリラ戦をすすめ政権を獲得した。これを[4 **キューバ革命**]という。彼らはアメリカ人の土地を接収し農民に土地を与えたためアメリカとの対立が激化、米大統領[5 **ケネディ**]は1961年キューバと断交、亡命キューバ人による武力侵攻をはかったが失敗した。これに対しカストロは[6 **社会主義**]宣言を発表し[7 **ソ連**]へ接近、ソ連はアメリカ侵攻に備えるべく[8 **核ミサイル**]基地建设をすすめた。

これにたいしアメリカは基地撤去を求め[9 **海上封鎖**]という強硬策にでたため世界は核戦争の危機に直面した。これを[10 **キューバ危機**]という。この危機はソ連の[11 **フルシチョフ**]第一書記がミサイルの撤去を決めたことで回避されたが、世界は核戦争寸前の危機をむかえたのである。

◎アジアの独立と冷たい戦争 g. ヴェトナム戦争とアメリカ

①1954 [12 **ジュネーブ**]協定により停戦 北緯[13 **17**]度を休戦ラインとする

②アメリカ、ジュネーブ協定を無視→統一選挙実施を妨害

1955[14 **ゴディン=ディエム**]を大統領とするヴェトナム共和国樹立←米、軍事経済援助を与える 独裁政治への反発高まる(僧侶の[15]など)→1963年、軍のクーデタで崩壊

③1960[16 **南ベトナム解放民族戦線**]結成、反米闘争をすすめる(ヴェトナム戦争)

④アメリカ、[17 **ジョンソン**]大統領(民主党)、地上軍を投入→しだいに泥沼化

⑤1964年、[18 **トンキン湾**]事件をきっかけに[19 **北ベトナム**]への爆撃(北爆)を開始

1967 東南アジアの反共諸国を結集→[**東南アジア諸国連合**]([**ASEAN**])結成
インドネシア(1965反共クーデタ発生)、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ

ASEAN・・・1967年、[20 **ヴェトナム**]戦争激化の中、共産主義の影響拡大を防ぐ目的で東南アジアのインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイという5カ国の反共国家を中心に組織された地域協力機構。1971年には中立地帯宣言を出し、地域紛争の自主解決をめざす方向にすすみ、社会主義国[21 **ヴェトナム**]、ラオス・[22 **ミャンマ**] (ビルマ)・カンボジアなども加盟、日本や中国などもオブザーバー参加するなどアジアにおける国際協力体制の中心的存在になりつつある。

⑥1968年解放戦線のテト攻勢、アメリカ国内外の[23 **反戦**]運動の高まり

↓
ジョンソン、1968 大統領選出馬断念、北爆停止・[24 **パリ**]和平会談開始

⑦[25 **ニクソン**]大統領、戦争の[26 **ヴェトナム**]化促進と米軍の部分的撤退

- ・米軍、戦線をラオス・[27 **カンボジア**]に拡大、北爆再開
→1970 軍部による親米クーデタ発生
- ・1971 [28 **米中**]接近＝社会主義陣営の切り崩しをはかる

・財政難の深刻化→ドルの金との兌換を停止 ([29 **ドル=ショック**])

ドル＝ショックと変動相場制・・・第二次大戦後の[30 **ブレトンウッズ**]体制のもと、これまでの金にかわって世界の基軸通貨となったのはアメリカの通貨[31 **ドル**]であった。しかしそれはアメリカが保有していた大量の[32 **金**]との兌換(金1オンス＝35ドル)を前提とし、各国通貨とドルの交換レート(\$1=¥360など)は固定されていた。([33 **固定相場**]制)しかし、ヴェトナム戦争にともなう財政危機の中、準備金の不足に直面したアメリカの[34 **ニクソン**]大統領は1971年[35 **ドルと金の交換(金兌換)**]を停止した。これをドル＝ショックという。こうしてドルは金による裏付けを失い、その信頼性を落とし、1973年以降、各通貨の交換レートは市場の売買によって定められるという[36 **変動相場**]制に移行することになる。

⑧1973 [37 **パリ和平**]協定調印→米軍の完全撤退・ラオスの和平成立

⑨1975 北ヴェトナム軍と解放戦線、[38 **サイゴン**]を占領
→1976 ヴェトナム統一完成→[39 **ベトナム社会主義共和国**]成立(首都ハノイ)

⑩1978 [40 **カンボジア**]の内戦に介入→侵攻。[41 **中国**]との紛争発生(中越戦争)
経済制裁を受ける→大量のベトナム難民(ボートピープル)の発生 **親米派や中国系住民など**

1989 カンボジアから撤兵

→以後、資本主義国との関係の改善をはかる。[42**ドイモイ**] (刷新)政策の実施
→[43 **ASEAN**]に加盟 **市場開放政策→急速な経済発展へ**

「封じ込め政策」をすすめるアメリカは[44**ジュネーブ**]協定を無視して国民投票の実施を拒否、1955年には[45**ゴディン=ディエム**]を大統領とする[46**ヴェトナム**]共和国を樹立した。独裁政治をすすめる彼に対し、反対勢力は1960年[47**南ベトナム解放民族戦線**]を結成、ゲリラ闘争をすすめた。1964年の[48 **トンキン湾**]事件をきっかけに民主党の[49 **ジョンソン**]米大統領は北ヴェトナムへの爆撃(北爆)を開始、地上軍の投入に踏み切り[50 **ヴェトナム**]戦争が本格化した。

アメリカは1967年、東南アジアの反共諸国を結集して[51 **東南アジア諸国連合**] (ASEAN)を結成、南ヴェトナム支援を強めた。しかし中ソ両国の支援を受けた解放戦線と北ヴェトナムの激しい抵抗によって戦争はしだいに泥沼化し、アメリカ内外で反対運動が激化し、財政面でも困難を生じた。しかも1968年解放戦線の[52**テト攻勢**]で米大使館が一時占拠されるという事態の中、ジョンソンは次期大統領選出馬を断念し、北爆停止と[53 **パリ**]和平会談実施を宣言した。

かわって大統領となった共和党の[54 **ニクソン**]は戦争の米軍の部分的撤退と[55 **ヴェトナム**]化促進とめざしたが、うまくいかず、北爆を再開するとともにヴェトナム軍の補給路となっているラオス・[56**カンボジア**]に戦線を拡大、カンボジアに親米派のロンノル政権を樹立した。1971年の[57 **米中**]接近も社会主義陣営の切り崩しをはかったという性格を持っている。なお、アメリカはこの戦争の膨大な戦費支払いから財政困難に陥り、1971年にはドル防衛のために、[58 **金**]とドルの交換を停止するという措置を行い([59 **ニクソン=ショック**])世界に衝撃を与えた。

1973年、[60 **パリ和平**]協定が調印されると米軍はヴェトナムから完全に撤退し、ラオスにおいても和平が実現した。1975年、北ヴェトナム軍と解放戦線は一気に攻勢に転じ、ついに[61 **サイゴン**]を占領、翌1976年[62 **ヴェトナム社会主義共和国**]が成立した(首都ハノイ)。